

嵐山らんざんに遊ぶあそぶ
(頼らい山陽さんよう)

清溪一曲水迢迢 夾水櫻花影亦嬌
桂揖誰家貴公子 落紅深處坐吹簫

清溪せいけい 一曲いつきよく 水みず 迢迢ちようちよう

解説 山陽が嵐山を訪れ、その感懐を詠った詩。

水みずを 夾はさむの 桜花おうか 影かげも 亦また 嬌きようなり

語釈 ※清溪せいけい 清らかな谷川の流ながれ。ここは嵐山を流れる大堰川おおいがわの清らかな流ながれのこと。 ※迢迢ちようちよう 遙かなさま。 ※嬌きよう 美しい。

桂楫けいしゅう 誰たが 家いえの 貴公子きこうしぞ

※桂楫けいしゅう 桂の木で作った櫂かい。 ※貴公子きこうし 身分の高い家の男子。貴族の子弟。 ※落紅らくこう 散り落ちる紅の花。 ※簫しょう 笛。

落紅らくこう 深ふかき 処ところ 坐ざして 簫しょうを 吹ふく

通釈 清らかな大堰川おおいがわが、一曲りして遙かに流れていく。その水をはさんで桜が花をつけ、流ながれに映る景色もまた美しい。この川を美しい桂の櫂かいを使って舟遊びをしているのは、どこの貴公子きこうしであろうか。紅の花びらの深く積もるあたりに座り、笛を吹いている。